

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	luna (ルナ) もりのこびとたち		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の特性に応じた専門性の高い個別支援	保護者アンケートにおいて、お子さんの特性理解や専門的な支援について全員から「はい」との評価をいただいています。個別支援計画に基づき、一人ひとりの発達段階に合わせた丁寧なアプローチを徹底しています。	職員の専門性を維持・向上させるため、事例検討会や外部研修への参加を推進します。また、支援内容の根拠をより分かりやすく保護者へ共有できる体制を整えられるよう、検討します。
2	安心・安全で構造化された環境設定	生活空間の清潔さや、お子さんが活動の見通しを立てやすいよう配慮した構造化(環境設定)に努めています。移転後の環境においても、活動内容に合わせてスペースを分けるなどの工夫を行い、集中できる環境を作っています。	現在のスペースの利点を最大限に活かしつつ、静かな活動と動的な活動(運動等)をより明確に切り分けられるよう、パーティションの活用や動線の見直しを柔軟に行い、活動の質を高めます。
3	共感的かつ丁寧な接遇と相談体制	職員がお子さんや保護者に対して共感的な姿勢で接することを重視しています。日頃の送迎時や連絡帳を通じた密なコミュニケーションにより、お子さんの状況についての共通理解形成に努めています。	日常の些細な悩みも気軽に相談できる雰囲気作りを継続します。職員の接遇マナー研修などを通じ、より一層信頼される事業所を目指します。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関・地域との連携および交流の不足	保育園や幼稚園、小学校等との情報共有や、地域行事への参加など、外部との交流機会が十分に確保できていません。これは連携先との調整プロセスが未確立であることが要因です。	近隣の教育機関や福祉施設とのネットワークを再構築します。具体的には、幼稚園・保育園訪問の実施や行事への参加打診、地域資源の活用を計画的に進め、お子の社会性を育む機会を創出できるよう努めます。
2	保護者支援および保護者間交流の機会提供	ペアレントトレーニング等の家族支援プログラムや、保護者同士の交流会(父母の会等)の開催ができていません。日々の業務に追われ、集団的な支援の企画が後回しになっていたことが課題です。	保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、年度内に少なくとも1回以上の保護者交流会や勉強会を企画・実施出来る様努めます。対面だけでなく、オンラインや資料配布による情報提供など、参加しやすい形態を検討します。
3	組織的な業務改善(PDCAサイクル)の確立	事業所自己評価において、目標設定や振り返りへの職員の参画、および組織的なPDCAサイクルの運用が不十分であると認識しています。一部の職員に業務が偏り、全体での意見共有が不足していました。	全体ミーティングを定例化し、全職員が業務改善や支援の質の向上について意見を出し合える場を設けられるよう努めます。自己評価の結果を全職員で共有し、具体的な改善目標を立てて定期的に進捗を確認する体制を構築したいと思えます。